

### 活動趣旨




全国的にも日本産純淡水魚は、水質汚濁や護岸整備などによる環境改変に加えて、オオクチバスやブルーギルなどの外来魚放流により近年著しく減少し、淡水・汽水に生きる魚類の42%が危機的状況にあります。一方、近年の環境意識の高まりにより淡水魚をはじめとする水生生物にやさしい河川づくりが進められています。河川へ関心を高め、淡水魚が生息しやすい環境の保全・再生、淡水魚や水生生物と身近に親しむことができる社会の実現のためには、一般市民に淡水魚の置かれた状況を広く知って頂くことが必要です。そのために、土器川・香東川・馬宿川における水生生物の調査を実施することに加えて、水生生物への負荷を高めない形で太田中央公園せせらぎ水路にて観察会を実施し、豊かで潤いのある河川環境の保全と豊かで潤いの河川の創造を担う人材の育成を目指しました。


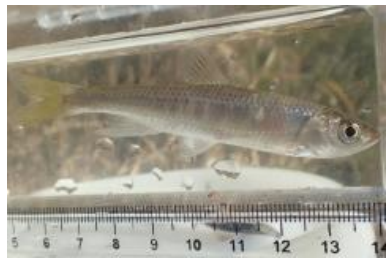




(共催) 香川県立高松桜井高等学校理学部

### 水生生物調査

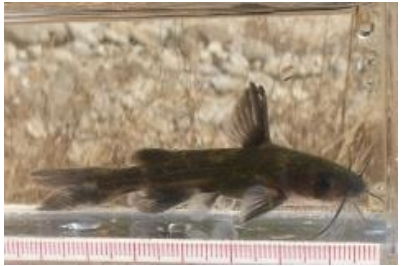





生態系にやさしい河川づくりに役立ててもらうために、土器川・香東川・馬宿川水系の水生生物調査を実施し、各河川での水生生物の生息状況を香川県などに提供しました。調査結果は今後発刊される香川県レッドデータブックに反映される予定です。







### 水生生物調査で確認できた淡水魚類

	土器川水系	香東川水系	馬宿川水系	淡水魚類写真
コイ (飼育型)	○	○	○	
ギンブナ	○	○		
ヤリタナゴ	○			

アブラボテ	○	○		
オイカワ	○	○		
カワムツ	○	○	○	
タカハヤ	○	○	○	
ムギツク	○	○		
タモロコ		○		

カマツカ		○		
イトモロコ	○	○		
コウライモロコ		○		
ドジョウ		○	○	
オオシマドジョウ	○	○		
チュウガタスジシマドジョウ		○		
ナガレホトケドジョウ			○	

ギギ	○	○		
アカザ		○		
ミナミメダカ	○	○	○	
オヤニラミ	○			
ブルーギル		○		
オオクチバス	○		○	

カジカ大卵型		○		
ドンコ	○	○		
ヌマチチブ	○	○	○	
チチブ	○			
ゴクラクハゼ			○	
シマヨシノボリ			○	
オオヨシノボリ	○		○	

クロヨシノボリ			○	
カワヨシノボリ	○	○		
シマヒレヨシノボリ		○		
トウヨシノボリ	○			
ウキゴリ			○	
スミウキゴリ			○	
カムルチー		○		

淡水魚類の詳しい説明は、  
香川淡水魚研究会公式サイト [https://kfish.sakura.ne.jp/?page\\_id=451](https://kfish.sakura.ne.jp/?page_id=451)  
にあります。

## 観察会

生息調査で得られた結果をもとに、絶滅の恐れがあり太田中央公園せせらぎ水路で保全が可能な水生生物については、地域住民と協働して生息域外保全に取り組んでいます。子ども達たちと観察会を行うことによって、生きものと直にふれあう機会を提供し、実体験からしか得られない生命の感動を伝えました。

### ・観察会実施日

2020年

8月23日（日）晴れ 第1回観察学習会 一般参加者 50名

10月10日（土）雨 第2回観察学習会 一般参加者 7名

11月 3日（祝）晴れ 第3回観察学習会 一般参加者 26名

2021年

3月28日（日）雨 第4回観察学習会 一般参加者 12名

### ・参加した子ども達から

「公園には飼いきれなくなった生き物が多く捨てられていて驚いた」

「コイの鱗が大きくて硬いことに驚いた」

「思っていた魚が、全然違う魚だと知って驚いた」

### ・企画運営した会員から

「絶滅の恐れが高いカワバタモロコを太田中央公園で保全することによって、危機を回避できる可能性ができて良かった」

「何気なく公園に遊びに来ていた親子も観察会の様子を見て、せせらぎ水路への関心を高めているようで良かった」



